

令和7年度 第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時** 令和7年9月2日（火）午前10時から正午まで
- 2 会 場** 都庁第二本庁舎31階特別会議室24及びオンライン開催
- 3 出 席 者** 瀧沢委員（会長）、山田委員（副会長）、増渕委員、吉川委員、佐藤委員、福田委員、佐藤委員、佐々木委員、野村委員、並木委員、山本委員、秋田委員、市村委員
- 4 議事内容**
- 協議**
- （1）「公立小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」の改正に伴う指標の見直しについて
- 働き方改革の推進においては、学校評価の更なる活用やコミュニティスクール等地域との連携も重視していく必要があるのではないか。
 - 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応においては、特別支援教育の充実はもとより、不登校施策や日本語指導等も視野に入れていくことが重要である。教員が指針の改正の趣旨を確実に理解できるよう周知いただきたい。
- （2）「新たな教育のスタイル」の確立に向けた教員のあり方について
- 校内研究で、デジタルの活用とリアルを大事にして取り組んできた結果、思考力、判断力、表現力に関する力が高まったと考えている。デジタルを生かした学びが広がっていくことを期待する。
 - 小中学校においても、生成AIの普及のスピードを意識していく必要がある。自治体では、ガイドラインの整備などの対応が求められる。
- ① これからの中学校に求められる教員の資質能力について
- 教員を目指す学生にとって、教員が子供の学びを伴走する具体的な指導の姿を見ることができれば、ティーチング、コーチング、ファシリテーションへの理解が深まるのではないか。
 - 教員が、ティーチング、コーチング、ファシリテーションを意図的に使い分け、特にファシリテーションを意識していくことで、子供たちの良さを最大限引き出し、主体的に学ぶ姿勢を育成することにつながるのではないか。
 - 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応においては、学校は、家庭や関係機関等と連携し、児童・生徒一人一人のニーズや保護者の思いにより深く寄り添った支援の在り方を検討することが重要である。
- ② 自立した学習者の育成に向けた課題と今後の方向性について
- 課題解決の過程と成果を具体的な事例で示し共有することで、デジタルとリアルを組み合わせた学びの取組が他校へ広がり、より推進されることを期待する。
 - 次世代の学びの基盤プロジェクトは、教員のパラダイムシフトを生むのではないか。引き続き子供たちの主体的な学びにつながるよう、議論を重ねていただきたい。
 - 自立した学習者を育成するためには、教員自身も学ぶことへの喜びを感じながら研さんを積んでいくことが大切である。